ペイント&コーティングジャーナル
2021年7月28日付　15面
(掲載許諾済)

SDGsを羅針盤に歩みを進める

アトミクス　代表取締役社長　神保敏和氏

アトミクスは昨年から全社的にSDGsの取り組みを加速させている。神保敏和社長は「SDGsの取り組みは今後の会社の方向性を決める上で重要な要素」とプロジェクトチームを発足。「地球および人の安全と快適さの確保」をコンセプトに、重要項目を明確にし、SDGsの目標達成に向けて貢献していく。

◇

――5月に決算が出ましたが、コロナの影響が大きかった昨年でも増収増益を維持しています。

「当社はいくつかの異なる市場で製品展開していることで、補完し合う関係になっています。昨年は、各事業への新型コロナウイルスの影響が懸念されたものの、道路用塗料では公共工事が比較的順調に推移しました。家庭用塗料は巣ごもり需要のおかげで好調を維持できました。建築用・床用塗料は企業の営繕が延期や中止になったことが影響し、昨年を下回りましたが、水性塗料の売上は昨年を上回っている状況です」

――現状、営業活動に影響はありますか。

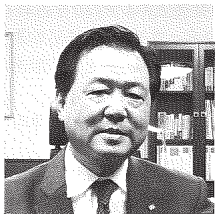
「同じ地域内での移動は影響ありませんが、(依然として陽性者の多い)東京から営業に行くことに難色を示すお客様がいることも事実で、今後もしばらくこの状況は続くとみています。そのため当社ではPCR検査のキットを常備し、検査を受けてから出張などに出かけられる体制を整え、少しでもお客様に安心してもらえる環境をつくっています。社内では、ワクチン接種が始まった段階で、接種のための特別休暇制度を設けています。この1年で社会環境は劇的に変化しており、迅速に対応していくことが必要になってきています」

――昨年からSDGsについて全社的にプロジェクトを発足させていますね。どのような狙いがありますか。

「売上や利益といった経済的な成長だけでなく、社会貢献といった部分が企業においても重要になっています。その上で、SDGsは将来の方向性を示す羅針盤のようなものだと考えています。当社では勉強会を開き、SDGsとは何かというところから理解を深めてきました。現在は今までの事業活動や社会貢献活動などを振り返りながら、整理をしています。SDGsの17の目標と当社の今まで行ってきたことが、どのような関わりがあるのか結び付けて考えるのが狙いです」

――具体的には。

「12番目の目標である『つくる責任つかう責任』が代表的ですが、当社では水性化、無溶剤化、無鉛化など有害物質を極力含まない製品の開発を積極的に行っています。例えば、塗り床製品では環境規制への対応製品として『フロアトップNTXシリーズ』を開発・販売しています。当製品はトルエン・キシレンを代表とする芳香族炭化水素系溶剤を配合せず、原料に含まれる少量の芳香族炭化水素系溶剤にもこだわった製品群です。学校関係や公共施設の物件でのシックハウス問題に対応する製品として提案を行っています」



「製品だけでなく、11番目の『住み続けられるまちづくりを』に貢献する活動として公園遊具の塗装ボランティアがあります。社会貢献の一環として埼玉県を中心に1971年から行っている活動です。先ほどの製品もそうですが、これらの活動や製品情報はホームページ上の専用ページで紹介しています」

――ホームページ上で訴求する意義は。

「環境対応製品の特長を訴えるのは、SDGsに取り組んでいる他の企業のニーズに合致することもあります。例えば環境に貢献できる製品を使いたいというニーズから、当社の製品が採用される可能性もあります。そういったSDGsや環境への意識が高い企業と関わりができることは、今後SDGsの取り組みを推進していく上で有益だと考えています」

――意識が高い企業との新たな関係も期待でそうですね。

「また、製品開発のヒントだったり、場合によっては連携ということも考えられると思います。この変化の激しい時代の中で1社ではできないこともあるかと思いますが、他の企業と連携することで新たな価値を持った製品を生み出せる可能性もあります」

――製品開発にもSDGsの取り組みが生きるということですか。

「製品開発の上でも、最短距離を歩くにはSDGsの取り組みを意識していくことが必要だと考えています。当社では、水性塗料の乾燥コントロールを昔から重要なテーマとして継続して研究しています。今まで適応が難しかった温度、湿度領域に対応していくことでより広く水性塗料の採用が広がれば、環境負荷の軽減に貢献できます。環境対応製品の開発は以前から行っていたことですが、改めてどのような社会課題に貢献できるのかSDGsと紐づけることで、より社員への意識付けにもなると考えています」

――貴社の今後の方向性は。

「まずは従業員ひとりひとりの仕事がどのようにSDGsに貢献しているのかを意識し、継続的に取り組んでいきます。そのための勉強会なども必要があれば継続して行っていきます。その上で、我々のSDGsへの取り組みを周知し、環境への意識の高い企業との関わりを増やしていきます。大学との連携も考えていますが、今のところ大学側がコロナの影響で通常の運営ができないこともあり、今は進んでいない状況です。今後、コロナの状況がもう少し落ち着いてから、取り組みが具体的になっていくかと思います。塗料メーカーという立場でSDGsへの取り組みを通じ社会課題の解決に寄与する製品開発や社会貢献活動を更に加速させて行きます」

――ありがとうございました。